

22年度決算の概要をお知らせします

平成23年第3回区議会定例会で、22年度の決算が認定されました。一般会計を中心に概要をお知らせします。

【問合せ】財政課(本庁舎3階)☎(5273)4049・☎(3209)1178へ。

基本目標の達成に向けた主な取り組み事例

22年度は、20年度からの新宿区総合計画に基づく基本目標(まちづくり編6つ・区政運営編2つ)の達成のために策定した第一次実行計画(平成20年度～23年度)の3年目に当たることから、「これまで培った財政対応力を有効に活用し、現下の厳しい経済状況の中、区民生活を支え、活力に満ちた地域社会を実現するための、明日につなげる予算」と位置付け、区政が直面する課題に積極的に取り組みました。

まちづくり編

目標1 区民が自治の主体として、考え、行動していけるまち

◎自治基本条例の制定(1294万1千円)

目標2 だれもが人として尊重され、自分らしく成長していけるまち

◎認可保育所等の整備(13億2381万8千円)
◎学校の情報化の推進(6億121万5千円)
◎女性の健康支援(729万7千円)

目標3 安全で安心な、質の高い暮らしを実感できるまち

◎高齢者総合相談センターの機能強化(2億3669万1千円)
◎建築物等耐震化支援事業(1億8440万5千円)
◎災害情報システムの整備(5億177万3千円)

目標4 持続可能な都市と環境を創造するまち

◎資源回収の推進(7億6354万2千円)
◎アスベスト対策(1007万円)
◎区民ふれあいの森の整備(8億9673万6千円)

目標5 まちの記憶を活かした美しい新宿を創造するまち

◎道路の通称名板の整備(2122万1千円)
◎みんなで考える身近な公園の整備(890万7千円)

目標6 多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を創造していくまち

◎落合の文化・歴史資源の整備・活用(1億3619万8千円)
◎放置自転車対策(歌舞伎町地区)(4215万1千円)

区政運営編

目標1 好感度一番の区役所の実現

◎発生主義・複式簿記の考え方を取り入れた公会計の整備(5444万4千円)

目標2 公共サービスのあり方の見直し

◎三栄町生涯学習館と新宿東清掃センターの活用・整備(807万8千円)

財政収支

▶一般会計・特別会計の財政収支(表1～3)

22年度は景気低迷の長期化の影響を受けて、特別区税が減収になるとともに、生活保護費などの支出が伸びるなど、区を取り巻く財政環境は引き続き厳しくなっています。こうした状況にあっても、これまでと同様に区民サービスの向上を進め、

喫緊の課題に対応するため、今まで積み立ててきた基金(区の貯金)を有効に活用しました。

この結果、一般会計決算の実質収支は黒字になりましたが、実質単年度収支(実質収支から基金の取り崩しと積み立ての影響額と前年度の実質収支を除いたもの)は2年連続のマイナスとなりました。

表1 一般会計の財政収支(△は減)

項目	22年度	21年度	増減
歳入総額 A	1341億4492万4千円	1315億9585万7千円	25億4906万7千円
うち特別区民税	339億2666万5千円	369億3312万5千円	△30億646万円
うち特別区交付金	244億8347万4千円	222億3482万5千円	22億4864万9千円
歳出総額 B	1299億5552万1千円	1272億7333万6千円	26億8218万5千円
形式収支(A)-(B) C	41億8940万3千円	43億2252万1千円	△1億3311万8千円
翌年度に繰り越すべき財源(※1) D	6700万1千円	3億263万2千円	△2億3563万1千円
実質収支(C)-(D) E	41億2240万2千円	40億1988万9千円	1億251万3千円
単年度収支(※2) F	1億251万3千円	△19億7070万3千円	
積立金 G	21億3459万6千円	32億1114万円	△10億7654万4千円
積立金取り崩し額 H	50億円	50億円	0円
実質単年度収支(F)+(G)-(H) I	△27億6289万1千円	△37億5956万3千円	
経常収支比率(※3) J	87.8%	85.8%	2.0%

※1 21年度は明許繰越分(事業が終了せず翌年度に繰り越す事業費)、22年度は事故繰越分(年度内に契約等を行い、避けがたい事故のため年度内に支出が終わらなかった事業費)

※2 実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額

※3 区税などの経常的な収入が、人件費や施設の維持などの経常的支出にどれだけ充てられたかを示す比率。70%～80%が適正水準とされ、この比率が高くなるほど財政に余裕が無いことを示します。

表2 一般会計の性質別経費(△は減)

区分	22年度		21年度		前年度比	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
義務的経費	684億円	52.6%	632億円	49.7%	52億円	8.2%
投資的経費	156億円	12.0%	126億円	9.9%	30億円	23.5%
その他経費	460億円	35.4%	514億円	40.4%	△54億円	△10.6%
合計	1300億円	100%	1273億円	100%	27億円	2.1%

※ 端数処理の関係で、合計数値や構成比が合わないことがあります。

表3 特別会計の財政収支(△は減)

区分	国民健康保険特別会計	介護保険特別会計	後期高齢者医療特別会計	老人保健特別会計
歳入歳出予算現額	332億9368万6千円	189億8346万1千円	57億7486万3千円	3774万5千円
前年度比増減率	△12億52万2千円 △3.5%	7億4420万6千円 4.1%	7528万7千円 1.3%	△6926万1千円 △64.7%
歳入決算額	311億1050万3千円	180億3300万6千円	54億1566万8千円	3366万6千円
収入率	93.4%	95.0%	93.8%	89.2%
前年度比増減率	3億3510万5千円 1.1%	3億1535万8千円 1.8%	1億9256万6千円 3.7%	△7314万9千円 △68.5%
歳出決算額	307億1977万4千円	178億5135万円	53億9103万9千円	3366万6千円
執行率	92.3%	94.0%	93.4%	89.2%
前年度比増減率	3763万5千円 0.1%	5億373万5千円 2.9%	1億7808万5千円 3.4%	△4311万1千円 △56.2%

▶基金・区債の現在高(表4)

区債の償還が進んだことにより、区債現在高(区の借金)は12年連続で減少し、259億円となっています。22年度末の基金現在高は467億円で、依然として区債現在高を上回り、区財政は将来の需要への一定の対応力を確保しています。しかし、区財政を取り巻く財政環境が厳しい中で、将来にわた

表4 基金・区債の現在高(△は減)

項目	22年度末	21年度末	増減
基金現在高	467億円	570億円	△103億円
区債現在高	259億円	268億円	△9億円

り安定した財政基盤を確保するためには、より一層、効果的・効率的な財政運営が必要です。

健全化判断比率

自治体の財政状況を早期に把握し、破たんを防ぐことを目的に制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」では、自治体財政の健全度を測る4つの指標(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)を定めています。

22年度決算では、4指標すべてで国の定める基準(早期健全化基準)を下回り、区の財政が健全であることを示しています。詳しくは、新宿区ホームページでご紹介しています。

健全化判断比率

(単位:%)

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
新宿区	—	—	0.2	—
(参考) 早期健全化基準	11.25	16.25	25.0	350.0

※22年度決算は、すべての会計で実質収支が黒字となったため、実質赤字比率・連結実質赤字比率は算出されませんでした。また、区の借金の残高等より基金等区の将来負担額を解消する財源の方が多かったため、将来負担比率も算出されませんでした。

「新宿区の財政について」冊子にまとめました



区財政の現状と課題を区民の皆さんに分かりやすくお知らせし、今後の財政運営の議論に生かしていただけるよう、冊子を作成しました。

財政課・特別出張所で配布するほか、区政情報センター(本庁舎1階)・区立図書館で閲覧できます。新宿区ホームページでもご覧いただけます。